



## 「西郷どん」キャンペーンの ロゴマーク・キャラクターを 使ってみませんか？

**鹿** 鹿児島県では、今年の大河ドラマ「西郷どん」の放送を契機とし、西郷隆盛をはじめ、ゆかりの深い人物、場所等を活用するための誘客ツールとしてロゴマークとキャラクターイラストを作成しております。「使用届」とデザイン案等使用方法がわかるものを提出するだけで無償でお使いいただけますので、商品パッケージや販促物等にロゴやキャラクターを活用して、鹿児島を一体となって盛り上げましょう!!

### ●ロゴマーク



### ●キャラクターイラスト



### ●届出までの流れ

- ① 「西郷どん」キャンペーン公式ウェブサイトより「使用取扱規程」「キャラクターマニュアルガイド」にて画像使用についてご確認ください。  
<https://segodondon.jp/character/>
- ② 画像をダウンロードして、デザイン案を作成します。
- ③ 届出書を作成し、デザイン案と一緒に鹿児島県観光課へ提出します。  
※ロゴマーク等を使用する場合は、「©鹿児島県」または「©pref.kagoshima」を明記してください。

### ●届出先

鹿児島県観光課ドラマプロモーション班  
電話:099-286-3010 FAX:099-286-5580  
E-mail:segodon@pref.kagoshima.lg.jp

## 平成29年度第3回理事会を開催!

平成29年12月18日(月)に第3回理事会を開催しました。新規入会3件、受託事業3件の補正予算について原案どおり承認され、10月までの事業経過報告が行われました。



## 伝統的工芸品「薩摩琵琶製作」 復活への取組

伝統工芸には、後継者の問題がいつもついて回る。背景には、社会環境の変化に伴う需要の問題と、それに起因する生産者不足の両面があり、薩摩琵琶も、その例に漏れない。薩摩琵琶は、16世紀に島津日新公が盲僧琵琶を改良させ、武士の士気高揚と修養のため奨励され、藩内で大いに栄えたといわれる。その後、明治維新を機に全国に広まり、洗練され、幾多の名人、流派が表れ、明治から昭和初期にかけて隆盛を極める。

しかし、終戦後の混乱から衰退を余儀なくされ、昭和30年代には、県内の製造者は途絶える。これを知った古武道家のS氏は、薩摩琵琶製作に取り組み、昭和45年に復元。平成11年に県の伝統的工芸品に指定されている。平成24年、S氏が亡くなり、再び後継者の問題が浮上すると、伝統の継承を案じた薩摩琵琶同好会は、木工家K氏に薩摩琵琶の復元を依頼し、1面が作製されたが、音の評価に関しては、関係者の満足を得るまでには至っていない。

### <研究会の発足>

その後、行政の支援もあって、全国唯一の琵琶製造者である東京の石田琵琶店の協力が得られることとなり、平成28年4月、後継者育成を目的に産学官からなる薩摩琵琶製作研究会が発足した。同年7月には石田氏を招き、「薩摩琵琶製造工程の詳細」と題した講演会が鹿児島大学において開催された。

薩摩琵琶製作研究会は、薩摩琵琶同好会、工業技術センター、国立高専、鹿児島大学、木工家などのメンバーで構成される。平成28年度は、明治維新150周年かごしま文化向上提案事業を受けて薩摩琵琶の製作に取り組み、平成29年1月、鹿児島大学において「薩摩琵琶製作の復活」と題して、その成果が発表された。

お手本となる薩摩琵琶7面について音響の専門家による音のスペクトル分析・評価とCT画像を用いた3次元データの解析および図面化が行われた。また、鹿児島大学では、石田氏の指導も受けながら学生のE氏が薩摩琵琶の製作に取り組み、経過が発表された。

平成29年度に入り、薩摩琵琶製作研究会は、地元川辺仏壇の塗りと、蒔絵の技術とのコラボをめざした新たな展開に入っている。

桑、樺など材料の調達、加工技術の習熟、音の検証と、解決すべき問題は多く前途多難ではあるが、長年の懸案であった薩摩琵琶の後継者育成に具体的な動きが進んでいる。伝統工芸存続の問題解決に、多方面からアプローチすることは大変有意義なことであり、今後の展開に期待したい。



お手本となった年代物の薩摩琵琶